

長い歴史とまとまりのある水田を地域連携で未来へ継承

大谷養水地区農空間保全協議会（寝屋川市・交野市）

- 大谷養水地区は、大谷新池を水源とし、交野市から寝屋川市に跨る、長い歴史を持つひとまとまりの水田を中心とした農用地である。
- 周辺は時代とともに開発され、住宅地に囲まれた環境に変化し、景観として一体となりながらも、良好な農用地の利用と保全が行われている。
- しかし、農業者の高齢化・後継者の不足が進んでいる現状のままでは適切な農地の維持管理にも限界が生じてくると考える。

【地区概要】	
取組面積	9.7 Oha [田6.79ha 畑2.91ha]
農業用施設	開水路 4.0km 農道 4.0km ため池 1箇所
主な構成員	大谷養水組合（水利組合）、大谷自治会、星田区、星田山手区、星田西区
交付金	467冊（R7）

活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化・後継者の不足が進んでいる現状のままでは適切な農地の維持管理にも限界が生じてくる。
- 住宅開発により、ゲリラ豪雨時の雨水の流入、溢水による浸水などの問題も発生。
- 寝屋川公園地区の開発による変化。



取組内容

- 地域住民と相互理解を深めるため、住民向けに溜池の機能や農業施設を説明しながら、大谷新池から下流の水田に広がるレンゲ畑までの見学会を実施。
- 大谷新市家周辺住民の方々と共同で大谷新池周辺の清掃整備活動を実施。



取組の効果

- 見学会、協働作業をきっかけに、農業者と周辺住民組織とのつながりが出来て相互理解が深まり、溜池の機能とリスクを共有し、雨水の管理について、共通の取組が出来るようになった。
- 水利組合では不可能であった、農業者の高齢化、後継者不足に関する取組が可能になった。

